

## 令和3年度「全国学力・学習状況調査」結果について

5月に6年生を対象に全国学力・学習状況調査が実施され、その調査結果が千曲市報（11月号）で公表されました。本校でも調査結果を分析し、成果と課題を明らかにして、これからの学習指導に役立てていきます。成果と課題を保護者の皆様と共有していかれるよう、本校の全国学力・学習状況調査の結果についてご報告いたします。

※調査結果は、学力の一部分で、学校における教育活動の一側面をとらえたものです。

### (1)教科に関する調査結果の概要（平均正答率と考察）

調査内容	学 習 指 導 要 領 の 領 域
国語に関する問題	○全国・長野県の平均を上回りました。 ①「言葉の特徴や使い方に関する事項」多くの児童ができていますが、課題があります。 ②「話すこと・聞くこと」相当数の児童ができています。 ③「書くこと」④「読むこと」50%を上回っていますが課題があります。
算数に関する問題	○全国・長野県の平均を上回りました。 ①「数と計算」②「図形」多くの児童ができていますが、課題があります。 ③「測定」相当数の児童ができています。 ④「変化と関係」多くの児童ができていますが、課題があります。 ⑤「データの活用」相当数の児童ができています



#### 【国語】

- ① 平均を上回り、国語の力は十分ついていると判断しています。また、無回答率が全体的に低く意欲も高い状態です。
- ② 「話すこと・聞くこと」に関して、特に「資料を用いた目的を理解すること」「目的や意図に応じ、資料を使って話すこと」ができていました。
- ③ 「書くこと」では、自分の主張が明確に伝わるように、文章全体の構成や展開を考えることが苦手な児童がやや見られました。文章を書く際には、理由や根拠を明確にして道筋を立てて書けるように、目的や意図に応じて提案する文章、推薦する文章などの種類を具体化し、その特徴を踏まえて書いたり、根拠や理由を全体の構成や展開の中でどこに配置するか考えたりできるように指導します。
- ④ 「読むこと」では、目的に応じて文章と図表とを結びつけて必要な情報を見つけて要約すること

が苦手な児童がややみられました。目的に応じた中心となる語や文を見つけ、図表での情報を理解できるように指導していきます。

#### 【算数】

- ① 「測定」「データの活用」では、正答率 90%以上の問題があるなど力がついています。また、無回答率がとても低く、意欲も高い状態です。
- ② 「数と計算」はほとんど理解できていますが、小数倍に関する割合の記述問題に理解が浅い児童がいました。割合と小数倍について、基礎基本の理解をより図っていきます。
- ③ 「図形」の答えの求め方を理解し、その説明を記述する時に必要な条件を落としてしまう児童がいました。式や言葉、数字を使って記述することについて、丁寧に復習します。

#### 【全教科を通して】

- ①文章や資料を関連付けて、必要なことを読み取る力をつけていきます。
  - ・物語や説明文だけでなく、多様な音読をおこなっていきます。
  - ・国語に限らず他教科においても、資料から読み取れることやそこから考えられることを話し合ったり、記述したりする活動をおこなっていきます。
- ②目的を意識して、分かったことや考えたことを整理して、筋道を立てて書く力をつけていきます。
  - ・どの教科でも自分の考えたことを書く時間を多くとったり、大事な言葉（キーワード）を確認したりしていきます。
  - ・友と活動する場面で、自分の考えを記述してから話し合ったり、話し合った内容を文章化したりする学習を仕組む試みをおこないます。

## (2) 生活習慣や学習環境等に関する調査結果の概要

- ・「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」(96.1%)「人が困っているとき進んで助けますか」(93.6%)「将来の夢や目標を持っていますか」(76.9%)「人の役に立つ人間になりたいですか」(83.5%)「自分でやると決めたことは、やり遂げようとしていますか」(89.7%)「毎日、同じくらいの時刻に寝ていますか」(88.5%)毎日、同じくらいの時刻に起きていますか」(94.9%)以上の項目について、良好な結果が見られました。
- ・「普段(月曜日から金曜日)1日どれくらいの時間、テレビゲーム(コンピュータゲーム、スマートフォンを使ったゲーム等)をしますか。(2時間以上3時間より少ない→(29.5%)「地域や社会をよくするために何をすべきか考えることがありますか」(47.4%)以上については課題が残る結果となりました。ゲーム等に要する時間については、自らで判断し、コントロールできるよう、情報モラル教育をおこなっていくとともに、ご家庭での協力もよろしくお願いします。「地域のために考える…」については、コロナ禍であり、地域に出て、地域のものに触れたり、地域の方に学んだりする学習の機会が減っていることが、この結果に表れています。地域のもの・ことに触れ、地域の方に学ぶ「ふるさと学習」について、アフターコロナに向けて、学校としてのカリキュラムを再度見直していきたいと考えています。

